

東京 肝臓のひろば

令和6年(2024年)4月号 第259号

特定非営利活動法人 東京肝臓友の会

〒161-0033 東京都新宿区下落合4-27-5-201
電話 (03) 5982-2150 振替 00120-6-40564
FAX (03) 5982-2151 口座名 東京肝臓友の会
<http://www.tokankai.com>



永代橋 東京・隅田川 切り絵・佐藤廣士さん

東京肝臓友の会主催 東京都委託事業医療講演会

自己免疫性 肝疾患を学ぶ

東京都健康プラザ ハイジア

日時：2024年3月16日(土)

講師：田中 篤 先生 (帝京大学医学部内科学講座 教授)



司会(古川祥子) みなさん、こんにちは。今日は汗ばむくらいの暖かい陽気ですね。60名近くのたくさんの方にお集まりいただきましてありがとうございます。本日司会を務めます、東京肝臓友の会スタッフの古川祥子と申します。

コロナ禍で集まることがずっとできませんでしたでしたが、約4年ぶりの対面での東京肝臓友の会主催の講演会は、自己免疫性肝疾患がテーマの講演会となります。この4年間はウェブで田中先生にお話をいただいておりますが、やっとこうやって集まって久しぶりにみなさんとお会いできてとてもうれしく思っています。

では本日の講師、帝京大学医学部内科学講座教授・田中篤先生をご紹介します。1988年東京大学医学部をご卒業後、聖路国際病院、東京大学第一内科、カリフォルニア大学デービス校などを経て、2003年帝京大学医学部内科学講座講師、2011年に

もくじ | Index

東京肝臓のひろば 259

2 医療講演会講演録
「自己免疫性肝疾患を学ぶ」
帝京大学医学部内科学講座 教授 講師 田中 篤先生

37 東京肝臓友の会 活動日誌 (2月、3月)

33 ジコメン・メディカル

38 情報BOX
患者会からの行事案内
事務局からのお知らせ

34 PBC・AIH・PSC通信

36 医学誌「肝胆臓」に米澤事務局長の論文が掲載

教授にられました。厚生労働省「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班では、研究代表者を務められています。ご専門はウイルス性肝疾患と、本日もお話しいただく自己免疫性肝疾患です。

東京肝臓友の会では以前から田中先生に講演会や相談会、会報紙へのコラム掲載など、大変お世話になっております。

では田中先生、どうぞよろしく
お願いいたします。

田中篤先生 みなさん、こんにちは。ただいまご紹介いただきました帝京大学内科の田中です。医療講演会には時々お声をかけていただいておりますが、こうしてみなさんを前にしてお話しするのは4年ぶりで、私もとてもうれしく思っています。去年、一昨年はマイクだけ立っているせまい部屋で、カメラがジッとこつちを見ているなか、一人でペラペラしゃべるだけだったのですが、やはり味気ない

んです。みなさんがどんな顔をしてお話しておられるか、それによって話を変えることもありまじ、また質問をお受けすることができるので、今日はみなさんと同じ部屋でお話しできることを大変うれしく思います。

それでは「自己免疫性肝疾患を学ぶ」というタイトルでお話を進めていきます。

肝臓の病気には原因がいろいろあって、ウイルス性肝炎が日本では患者さんの数が一番多く、特にB型・C型肝炎の患者さんはまだまだ多くいらつしゃいますし、最近増えているのが、体重が増えて肝臓に脂肪がついて肝臓が悪くなる、非アルコール性の脂肪性肝疾患です(図1)。もちろんアルコール性や薬物性の肝疾患もありますが、今日は自己免疫性肝疾患、英語でAIH(自己免疫性肝炎)、PBC(原発性胆汁性胆管炎)、PSC(原発性胆管炎)と称していますが、その3つに焦点をしばって

お話しいたします。

この3つの病気は国が指定難病としております(図2)。患者さんにとっても医者にとっても悩みが多い病気です。先ほど古川さんからご紹介いただいたように、このよ
うな病気、「難病」に対して、私は日本の現状を調べて研究しなさいと厚生労働省から研究費を出して

肝障害の原因となる病気 — いろいろあります

- ▶ウイルス性肝炎(A型、B型、C型、E型、その他)
- ▶非アルコール性脂肪性肝疾患
- ▶アルコール性肝障害
- ▶自己免疫性肝疾患(AIH、PBC、PSC)
- ▶薬物性肝障害
- ▶胆道疾患(総胆管結石・急性胆管炎など)



図1

難病??

- ✓ 治らない? 治せない?
 - ✓ この先一体どうなるのだろう
 - ✓ 仕事は? 生活は?
 - ✓ 主治医の先生も満足はいく説明をしてくれない
 - ✓ ホームページでも怖いことばかり書
- 「あなたの病気は難病です」
「一生治りません」
「死ぬまで薬を飲み続ける必要があります」
「病気についてはインターネットで調べなさい」
- 正しい情報を得てください
必要以上に思い悩まないでください

図2

もらって、全国の先生にお声をかけて研究班を組むとともに、ホームページを作って情報提供に努めています。

このホームページでは患者さんから質問を受け付けております。「難病というのは治らないのか?」「治せないのか?」「この先いつたいていなるのか?」といった質問、あ

るいは仕事や生活の問題についての質問やご相談のメールが、週に3〜4件寄せられています。

特に問題だと思うのは、「主治医の先生がきちんと説明してくれない」「先生に聞いても詳しく教えてくれない」というご相談が多いんです。病院で「あなたはこういう病気です」と言われて、みなさん帰宅してからその病気についてネットでお調べになるんですね。そうするとネットには怖いことがたくさん書かれているんです。「何年か経つと移植する」「死んでしまう」など怖い話が多く見られ、「私はどうすればいいんでしょうか」とお悩みになる方が多いわけです。

医者の側にも問題があつて、「あなたの病気は難病です。一生治りません。死ぬまで薬を飲み続ける必要があります」と、これは患者さんが実際に医者からそのような言われたという話を聞きました。私もこのセリフにはちょっと驚きましたが、本当にこのような先生

はいらっしゃるようで、「病気についでにインターネットでご自分で調べてください」と言われたり、病気だと診断してすぐに、「あなたは肝臓移植が必要になるから準備をしてください」と言う医者がいまだにいるようです。

医者に「突き放した説明をするのははやめましょう」ということは、この10年くらい口を酸っぱくしてあちこちで言っているのですが、いまだにこのような先生がいらっしゃるのは残念です。

そんなわけで今日はこの病気に ついて、みなさんに正しい情報を得ていただきたいと思えます。難病ですからご本人が思い悩むのは当然ですが、必要以上に思い悩まないでいただきたい。私のお話を聞いて少し気が楽になったり、ホッとしたり、そんな思いでお帰りたいだければ望外の喜びです。

「自己免疫性肝疾患」は肝臓の病気ですが、そもそも「免疫」についてわかりやすく簡潔に説明する

のは、実はとても難しいことなのです(図3)。ネットで「免疫」を検索すると、「このサプリを飲むと免疫力がアップする」という広告がゴロゴロ出てきますが、だいた「免疫力がアップ」と書かれているものは、全部マユツバだと思っ ていただいて結構です。そのようなサプリにお金を使わないでくださいね。

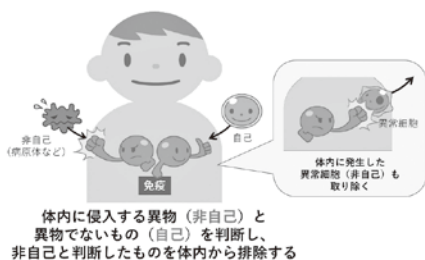
免疫力というのは、上げたり下げたり一概にできるものではありません。病原体によってこまかく調整されているので、免疫力全体を上げたり下げたりということができるわけではないのです。

免疫とは身体の中に入ってくる異物、つまり細菌やウイルスなど自分の身体にもともとない病原体などが体内に入ってきたとき、その異物を身体から排除する働きのことを言います。自分の身体にもともと存在しないものを「非自己」、もともと存在するものを「自己」と言います。「非自己」と「自己」

を見分けて、自分の身体に存在しないもの、つまり「非自己」だけを体内から排除することが、免疫の働きと定義されています。

少々難しい話ですが、自分の身体を守るために、外から入ってきたものを攻撃して取り除くことだどご理解ください。外から入ってくるものというのは、いまの季節だとインフルエンザウイルスやコロナウイルス、あるいは細菌などの

自己「免疫」性肝疾患:「免疫」とは?



ことです。

「非自己」は外から入ってきたものだけではなく、体内にもともとあったけれど、姿が少し変わったものも「非自己」として排除されます。その典型的なものががん細胞です。実は人間の体内ではがん細胞がしょっちゅう発生していて、小さいと免疫系が見つけて、「自己ではない」と判断し、攻撃して壊しています。

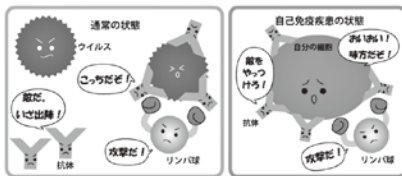
免疫の働きはそのようにうまくできているのですが、これが自己免疫となると話が少々変わって、自己と非自己を見分ける働きの調子が狂ってしまうわけです。外から入ってきた細菌やウイルスは、人間の身体のたんばく質といった成分と、それほど変わらないことがわかっていきます。人間の身体も元をたどれば、何億年も昔は大腸菌とあまり変わらない姿なので、例えば大腸菌と人間の体内にある成分とを見分けるのは難しく、人間の免疫系は時々間違えることがある

ります。そうなると自分の身体にもともとある細胞や組織を、外から入ってきた異物と勘違いして、「非自己」と誤って認識をして攻撃することが時々起こります(図4)。この現象を「自己免疫」と言い、これによって起こった病気を「自己免疫性疾患」と呼んでいます。これが肝臓に起こるので、「自己免疫性肝疾患」というわけです。

この病気は肝臓にだけ起こるわけではなく、甲状腺や膵臓など身体中のあちこちで起こります。一番多いのはリウマチで、関節の滑膜細胞が免疫系に誤って非自己と認識されるために攻撃される病気です。肝臓に起こると自己免疫性肝疾患となり、主に自己免疫性肝炎(AIH)、原発性胆汁性胆管炎(PBC)、原発性硬化性胆管炎(PSC)の3種類があります(図5)。PBCは原発性胆汁性肝硬変という名前でしたが、昨今では肝硬変まで進む方はあまりいらっしやらないので、2016年に原発性胆

汁性胆管炎と名前が変わりました。肝臓の中でもどの細胞が壊れるかによって、それぞれの病気と診断されるといっわけです。今日この会場にいらっしやる方は、この3つの病気のどれかにかかっている、あるいはこの病気の患者さんが身近にいる方だと思われています。3つのすべての病気にかか

「自己免疫」性肝疾患: 「自己免疫」とは?



自己・非自己の区別は時としてかなり困難
自己由来の物質(細胞・組織)を異物(非自己)と誤って認識し、
免疫系が誤って攻撃してしまうことがある!

図4

自己免疫性肝疾患 (autoimmune liver disease)

- 自己免疫性肝炎 (autoimmune hepatitis; AIH)
2016年病名変更 (それまでは原発性胆汁性肝硬変でした)
- 原発性胆汁性胆管炎 (primary biliary cholangitis; PBC)
- 原発性硬化性胆管炎 (primary sclerosing cholangitis; PSC)

図5

さんが、2つの病気を合併されているオーバーラップの方はたまにいらっしやいます。もちろんご自分の病気に関心が一番あると思いますが、3つの病気はつながっている部分もあるので、順番にお話を伺いきただければと思います。この病気の有病率、つまり患者さんの総数は増加しています。厚

同病者による面談相談

☆肝臓病のこと、生活のこと、なんでも お気軽にご相談ください☆

日時: **4月30日(火) 6月30日(日)**

13時30分～16時30分 (1人1時間)

場所: 東京都障害者福祉会館 1階 相談室

対象: 東京都在住、在勤の方優先

主催: 東京都

相談料: 無料 (予約制)

相談員: 米澤敦子 (東京肝臓友の会 事務局長)

申込方法

※電話でお申し込みください。

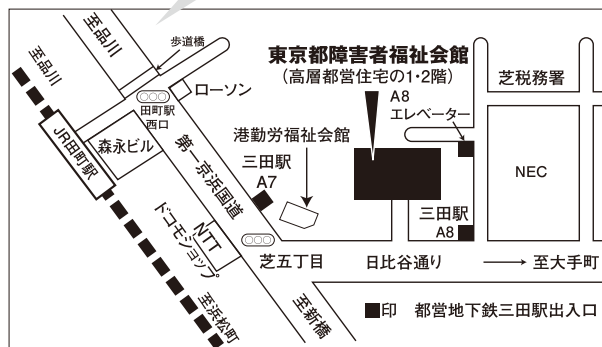
【申込先】都障害者福祉会館相談係

〒108-0014 港区芝5-18-2

☎ 03 (3455) 6321

【交通案内】

- ◆ JR「田町駅」西口徒歩5分
- ◆ 都営三田線「三田駅」出口A8 徒歩1分
- ◆ 都営浅草線「三田駅」出口A7 徒歩1分



東京肝臓友の会 会員のみなさまへお礼

毎年この時期に会員のみなさまより募金や寄付金をお送りいただきますが、全員にお礼をお伝えすることができず、心苦しく思っております。

この場を借りて厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

みなさまよりいただいた募金、寄付金は「肝臓病の撲滅」や「肝臓病患者の支援」のための活動資金とさせていただきます。今後ともお力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

東京肝臓友の会事務局からお知らせ

4月30日(火)～5月6日(月)まで

電話相談はお休みです

※5月7日(火) 10:00 から通常通り行います

本会報掲載の記事を転載する場合はご連絡ください。